

世界の市場に無い、独創的な技術を持った濾過製品を開発！ 目名製作所の新たな挑戦

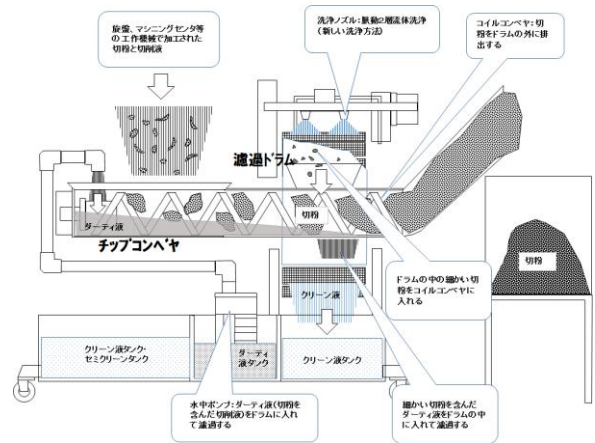


「Rokadora Ace(ロカドラエース)」
開発・2020年9月に販売

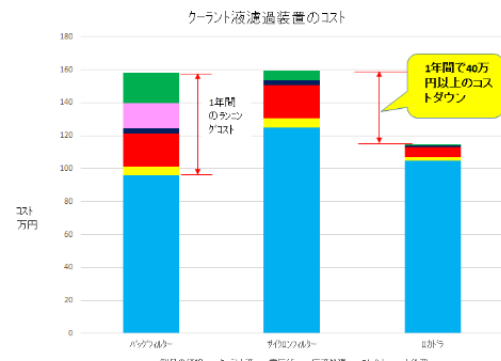
代表取締役 目名 保彦(めな・やすひこ) 62歳

ステンレス・アルミ・スチール製品の板金、プレス、溶接、SUS溶接焼跡、電解式焼除去およびバフ研磨等の加工を行っていた当社は、加工以外の事業分野を探しており、付加価値の高い製品を創り上げたいと考えていた。2019年に、取引のあった会社の濾過装置開発事業を当社に継続してほしいとの相談があった。当社の思いと合致したため新しい事業に取り組むきっかけとなった。

切削機械加工の際には、クーラント液を用い、切粉(切り屑)が排出される。クーラント液は産業廃棄物となるため再利用が望ましく、様々な濾過装置が市場にある。現状の濾過装置の課題として、①濾過処理速度、②濾過精度、③メンテナンス、④ランニングコストが挙げられる。当社が開発した濾過装置は、①ドラム型であるため濾過面積が大きく処理速度が速い、②濾過の重要な心臓部分であるフィルターが三重構造となっており高精度を実現、③二流体洗浄方法によるフィルターの目詰まりを解消、④メンテナンス頻度の減少によるランニングコストの改善、といった現在の課題をクリアした濾過装置の開発に成功している。



主に工作機械に使用される、機械加工した切削切粉を自動で排出し、クーラント液(切削液)を高い精度で濾過する機能



・受賞のポイント(審査員のコメント)

付加価値の高い自社のオリジナル商品開発に果敢に挑戦した点が高く評価された。顧客のニーズを汲み、コストダウンできる新商品は、競争力があるため実現できるように可能性を高めていただきたい。